

第2回若者まちづくりミーティング 概要

1 日時

平成28年8月4日（木）午後1時から午後4時30分まで

2 場所

蒲郡市民会館会議室2（前半はマイクロバスによる市内公共施設見学）

3 出席者

(1) 若者まちづくりミーティング参加者（総人数15名の内11名出席）

（出席者内訳）

- ・高校生 2名
- ・大学生及び大学院生 7名
- ・社会人 2名

(2) ファシリテーター

名古屋大学大学院工学研究科 恒川 和久 准教授

4 内容

(1) 市内公共施設見学

ア 施設見学の実施

マイクロバスで市内の公共施設を巡回し見学を実施しました。参加者各自が各施設の「第1印象（良いところ・悪いところ）」及び「どうすればもっと喜ばれる施設、利用される施設になるか」を考え、「施設見学メモ」にまとめました。

（見学した施設）

- ・蒲郡市生きがいセンター（施設職員による説明あり）
- ・蒲郡市老人福祉センター寿楽荘（施設職員による説明あり）
- ・竹島水族館（外観のみ）
- ・竹島レストハウス（外観のみ）
- ・南部市民センター（施設職員による説明あり）
- ・蒲郡市博物館（施設職員による説明あり）
- ・蒲郡市民会館

イ 施設改善アイデアの発表

見学を終え会議室に移り、「施設見学メモ」に記入した意見を参加者全員が発表しました。ご意見の内容は以下のとおりです。

- ◆ 南部市民センターは、ロケーションがいい。観光客が多い。カフェス

ペース・サロンとしての活用なども考えられるのではないかと。

- ◆ 南部市民センターに可能性を感じる。竹島参道の軸線上にある。軸を意識し受け止める施設が必要。観光や休憩スペースを複合化で整備してはどうか。
- ◆ 博物館、「見せる」ためのアピールが少ない。博物館であることのアピールが少ない。人を呼び込む戦略を考えるべきではないか。
- ◆ 竹島エリアは菊池寛や川端康成が宿泊したこともある。南部市民センターについては、アーティストレジデンスのような活用も考えられるのではないかと。アーティストが作品を製作し、市民や観光客が見に来るスペースを用意すると良いのではないかと。
- ◆ 生きがいセンターは、資料を見ると祭りの時は子供が来るが、それ以外の際は子供が来ない。使われていないスペースを、展示スペースや児童館、働いているお母さんのためのスペースとすると良いのではないかと。
- ◆ 寿楽荘の存在を初めて知った。利用者の方は楽しそうに使われているが、立地から一部の地域の人しか便利に使えない。市全域に向けてバスが運行しているということだが、市民全体の高齢者が認知しているか疑問がある。もっとアピールを行った方が良いのではないかと。
- ◆ 生きがいセンターについて、学校に行けない方は他の方とのつながりをもっと持てると良いのではないかと。
- ◆ 博物館で、別の施設で行っていた編み物体験を行い、蒲郡の昔の姿を体験してもらおうと良いのではないかと。
- ◆ 寿楽荘は立地が良い。ただし高齢者の方は、坂を上るのが大変ではないか。もっと若い人とのふれあいが必要。孫を連れて来られるような施設にできると良いのではないかと。また、孫の世代が大きくなったときに再び訪れることのできるような使い方をすると良いのではないかと。
- ◆ 博物館は、年間3万人の利用者が居るということだが、企画展に集中しており、常設展の利用者は少ないのではないかと。建物よりも企画を工夫すればもっと人が来るのではないかと。
- ◆ 市民会館は海を感じる立地でとてもいいが、人気がない。若者が一緒に集まれる場になればいい。
- ◆ 生きがいセンターに隣接した小学校の出身だが、ほとんど知らなかった。学校との交流があると良いのではないかと。
- ◆ 寿楽荘は、良い施設だが、蒲郡市と豊川市の市民しか使えない。他の自治体の方にも使ってもらおうと良いのではないかと。そのために、バス

を増やして運行することも考えられるのではないか。

- ◆ 博物館が観光地と離れている。博物館を、竹島エリアにまとめていくことも考えられるのではないか。
- ◆ 寿楽荘は、活気があると感じた。名称を横文字にすると、イメージも変わるのではないか。

ウ 蒲郡市の公共施設の全体像（説明：恒川准教授）

見学した施設の他にも蒲郡市には様々な施設があることを蒲郡市公共施設白書等の資料に基づく説明がありました。

エ 若者まちづくりミーティングでの考え方（説明：恒川准教授）

「蒲郡市の公共施設のあり方に関する提言書」に、「地域に密着すべき施設と市として機能を確立すべき施設とを二つに分けて運営調査をしていく必要があります。」とあることを踏まえ、若者まちづくりミーティングでは、「全市利用型施設」と「地区利用型施設」に区分けして考えていくことの説明がありました。

(2) 「まちの核となるエリアの魅力創出」について考える その1

ア 「全市利用型施設」の集約を考えるエリアの設定（説明：恒川准教授）

「蒲郡市の公共施設のあり方に関する提言書」では、「まちの魅力を高めるためには、個々の施設単位で考えるだけでなく、一定のエリアの単位で考え、各エリアの特徴に応じて、施設を整備する必要があります」とされており、「まちの核となるエリア」として、「蒲郡駅から生命の海科学館、市民会館、博物館と続くエリア」及び「竹島周辺」が挙げられています。このことを踏まえて、若者まちづくりミーティングでは、「蒲郡駅南エリア」と「竹島周辺エリア」の2つのエリアを対象に、魅力創出について検討する旨の説明がありました。

イ 各エリアの「強み」・「弱み」の洗い出し

参加者が2グループに分かれ、2つのエリアの「強み」と「弱み」として思いついた意見を発表し合い、グループのリーダーが発表しました。参加者から出された意見は以下のとおりです。

【蒲郡駅南エリア】

	強み	弱み
Aグループ	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 駅から近い ◇ 駐車場が多いので車でも行ける ◇ 学校行事で行ける ◇ 道路が広い ◇ バス停が多い ◇ 生活利便がよい ◇ 生命の海科学館がきれい ◇ 人が集まるイベントが多い ◇ 文化施設が多い ◇ 親子で行けるイベントがある ◇ 駅から南にすぐ海が見える 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 勉強スペースが少ない ◇ 子どもの遊び場が少ない ◇ 地元の大人が行く所が少ない ◇ 時間をつぶせる場所が少ない ◇ 施設のアピール度が低い ◇ 生命の海科学館の良さが伝わっていない（例 建築デザインなど） ◇ 博物館など展覧スペースがない ◇ （おもしろい展覧会やりたいのに） ◇ それぞれの施設のつながりが見えない ◇ 駐車場がやたらと広い ◇ 博物館や市民会館は市民が日常的には使わないので、コンセプト（市民の生活を支える）が違うのではないか。
Bグループ	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 椅子が多い ◇ イルミネーションがある（冬） ◇ 駅前の鳩が人懐っこい ◇ 駅前は歩きやすい ◇ アピタがあり便利 ◇ 科学館は子どもを集める工夫をしている ◇ 海が近く景色がよい ◇ 風が気持ちよい 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 日常的には使わない ◇ 電車で来ようと思う施設がない ◇ 市民会館はイベントで利用するが日頃は来ない ◇ 博物館が地元の人向けのエリアの一番奥にある ◇ 博物館と科学館が一緒でも良いのではないか？ ◇ アピタが一番目立つ（駅から景色がみえたらよい）

○発表の概要

（Aグループ）

- ・市民生活を支えようとしているが、実際にはそうなってはいないのではないか。
- ・アピタなど民間施設との連携も必要ではないか。

（Bグループ）

- ・冬のイルミネーションなど、観光にも力を入れている。アピタがあり便利であり、海が近く景色が良い。風も気持ちが良い。
- ・駅の通過客を呼び込む仕掛けが足りない。
- ・博物館などは人を集める工夫が必要。イベントについても、地元へのアピールが不足している。
- ・博物館と科学館が一緒になっても良いのではないか。

【竹島周辺エリア】

	強み	弱み
Aグループ	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 景観がすばらしい ◇ 5月のつつじがきれい ◇ ボランティアガイドがいる ◇ 地域密着型の水族館がある ◇ 文化的価値、天然記念物、文学、歴史など ◇ 運動ができる ◇ 開けている土地で開発の可能性はある ◇ 駅から徒歩で行ける 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 水族館の横がすたれている ◇ 幅広い年代の方が来たがる観光施設がある ◇ 運動ができる所に日影がない ◇ 案内がない ◇ 歴史的な建物があるのに隠れている ◇ 竹島水族館と竹島間の道路の整備不足 ◇ 存在がわからない建物がある ◇ 駐車場が少ない ◇ イベント時の道路の混雑
Bグループ	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 集客力がある（竹島水族館） ◇ 観光客の通り道 ◇ 文学記念館は宣伝できる、集客できる ◇ 遠方からの観光客にはホテルがある ◇ 海水浴、潮干狩りができる ◇ 潮の満ち干きで島と本土がつながる神秘的な場所 ◇ 海と公園の外の雰囲気がい ◇ 全体が近いのでけがをしても不安が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 駅からちょっと遠い ◇ 休める場所（がない？） ◇ おみやげスペース（がない？） メヒカリやみかんが食べられるようにしたらどうか ◇ 誇れる竹島水族館が古い ◇ 観光の気質に南部市民センターが合っていない ◇ 広い空気をゲートボールのためだけに使うのは勿体ない ◇ 若者はどこに!?

○発表の概要

（Aグループ）

- ・歴史的価値についての情報発信が必要ではないか。
- ・眺望などを活かしきれていない。魅力を引き出す環境整備が不十分ではないか。
- ・駐車場や、駅からの案内が不足しており、日陰が少ない。基盤整備が不十分ではないか。

（Bグループ）

- ・宣伝を行えば、もっと集客できるのではないか。
- ・海水浴や潮干狩り、干潮時に地続きになることなども、アピールして良いのではないか。
- ・駅から遠く、休憩所がない。店舗がもっと便利な位置にあると良いのではないか。
- ・竹島水族館の見た目が古くなってしまっている。
- ・若者が少ない。居場所を用意してはどうか。

(3) まとめ（説明：恒川准教授）

- ・ 次回は、今回の意見を踏まえ、2つのエリア魅力創出の方策について検討する旨の説明がありました。
- ・ 2つのエリアの「弱みをどのように解決するか・強みをどのように伸ばすか」について、次回までに「事前検討シート」に考えをまとめていただく旨のお願いがありました。